

大熊町立学び舎ゆめの森

寄稿

～ 温故創新 ～

私をはじめまる場所、
それが学び舎ゆめの森



学び舎ゆめの森 副校長
ますこ けいしん
増子 啓信

○ はじめに

大熊町は東日本大震災に伴う東京電力第一原発の事故により、約100km離れた会津若松市に全町避難しましたが、令和5年4月に12年ぶりに大熊町で学校再開を果たしました。小中一貫の義務教育学校と認定こども園、学童保育、預かり保育が一体となった「学び舎 ゆめの森」が誕生しました。令和5年8月末からは新校舎でリスタート。令和6年1月現在、0歳～15歳までの39名（小・中学生24名、園児15名）が通っています。

1階は細部まで木質化を図った2階建て校舎の中心にあるのは、吹き抜けの開放的な「わくわく本の広場」。最大で5万冊の本が収蔵可能です。この本の広場から放射状に創作工房やランチルーム、学習室、職員室、体育館等を配置。居室や廊下との壁を最大限減らすことで、大きな空間が出現し、教科や年齢の垣根を超えた学びと遊びが混じり合う教室に大変身。本に囲まれながら、子どもたち一人一人の誰もが自分の居場所を見つけ、楽しく学び続けることができる、そんな空間デザインとなっています。

このような教育空間にて、子どもたち一人一人が自ら考え決めて動き出すこと、すなわち、自分で自分の学びをデザインできる姿を目指し、遊びの中から多くを学び、学びの中にも遊び心を忘れず、自分らしい未来を切り拓く力を育てています。それが、新たな価値の創造につながり、イノベーションを起こせる人材育成に結びつくものと考えています。



【多目的スペース「わくわく本の広場」】



1 ゆめの森って、どんなイメージ…？

(1) ゆめの森（義務教育、認定こども園）教職員、学童保育スタッフに、聞いてみました。

- 真ん中にまあい図書館があって、四角い教室がない
- ○年○組という教室が一つもない
- 学び舎のあちこちで授業をしている、学んでいる
- ワクワクがいっぱあ〜いおもちゃ箱みたい
- ごちゃまぜラーニング



【子どもたちが混じり合う円環スペース】

- はじめてに出会える場所

(2) 子どもたちに聞いてみました。

- 本に包まれているみたいで、いつでも読める
- とっても広くて、散歩ができる場所
- 学校の形がすごく変わっています
- 迷路みたいで迷っちゃうけど、行き止まりがない
- 必ず、本の広場につながっている
- 毎日が、めっちゃくちゃ楽しい
- キュビナ（AI型学習教材）があって、いつでもどこでもやれる

(3) 視察者（1,000人超 R 6.1月現在）の声もいくつか紹介します。

- 子どもの楽しい、ワクワクがあふれる素敵な場所でした！自分の中の教育・学校の考えが覆されました。私もいつかゆめの森で働いて、子どもの夢を支えたいです。
- 学校って何だろう？先生って、何をする人なんだろう？…改めて考えさせられました。子どもの「～してみたい！」を実現できる環境づくりをしてみたいです。
- ここで育てたかったです!! 空間や学習、人との関わりの中にかくさんの余白があって、その余白の中で創造性や自主性、意欲が育つのだと思います。また来たいです。



【特徴的なフォルムを持つ外観】

- めっちゃ楽しい場所
- インクルーシブであったかい
- 学年や特性が目立たない、まぎれている
- 一人一人を大切にする
- 個性を尊重している
- のびのび、しばられることなく自由度が高い
- やりたいこと、やりたい授業ができる
- 子どもが元気になる、元気に登校したくなる
- 一人一人の可能性を模索していく
- 学びをはじめ場所



【まあい中庭「ぼかぼか広場」】



【視察者の声を紹介するメインエントランス掲示版】

- やられたぜ。くやしいぞ。うらやましい。そして、大したもんだ！たくさんの刺激もらったワンダーランドです。
- ついにできた!! と、100年先の未来を創り始めたのだなあという想いになりました。
- 子どもたちがのびのびと学習している姿を見せていただき、大変感銘を受けました。このような学校がたくさん出来れば良いと願っています。
- すばらしい遊び心が詰まった学校でした。こんな学校がある町に住みたいです。

- 正解を選ぶではなく、選んだものを正解にできる学び舎に!!
- 私もゆめの森に通いたいです!! ゆめの森のファンの皆さん、一緒に未来の教育を創りましょう!
- 人を育てる志、想いに感動しました。自分事として、私もここから尽力します。

2 ゆめの森が大事にしていきたいこと

(1) 目指す世界観

ゆめの森では、『わたし』を大事にし、『あなた』を大事にし、みんなで未来を紡ぎだす」世界をビジョンとして掲げています。なりたい自分になるためには、自分の好きに没頭するだけでなく他者の自由も尊重する、すなわち、互いの違いを認め合い緩やかな協働性に支えられたインクルーシブな環境を創っていくことが大事であり、その環境の中で誰にとっても優しい持続可能な社会、そんな未来を紡ぎ出していきたいと考えています。売れるものを同じように生産すれば売れるという大量生産大量消費の時代、社会の歯車であれば幸せになれた今までの時代とは大きく異なり、急激な人口減少社会や多様性の時代に入りつつある今だからこそ、一人一人が自律した人間として社会や地域を共創していく人材を育成する学びへと変革を遂げなくては…と思うのです。

(2) 非常識から常識を創り出す

温故創新、この言葉は、町教委の教育理念です。今まで取組んできた大熊の教育（DNA）を引継ぎながら、これからの時代に求められる資質・能力を育成できるように、多様性に対応した個別最適な学び、「多様性を力に変える教育」へと質的に転換していくことを意味しています。令和4年5月に公表した経産省の「未来人材ビジョン」によると、これからの時代に必要となる能力やスキルは、基礎能力や高度な専門知識だけでなく、「常識や前提にとらわれず、ゼロからイチを生み出す能力」「夢中を手放さず一つのことを掘り下げていく姿勢」「グローバルな社会課題を解決する意欲」「多様性を受容し他者と協働する能力」であるとしています。将来起こるであろう大きな産業構造（社会システム）の変化を前提に、バックキャストとして、今からできることとは何であろうか。軸を未来に据えて英知を結集させた結果、形となって現れてきたのが「ゆめの森」です。

① 校舎設計について

真っ直ぐの廊下、四角い教室、南向きにある窓…、今まで当たり前と想っていた概念、考えを一旦リセットして、真っさらな状態にして、子どもたちが本当に楽しいと感じることができる、自ら学びに向かうことができる校舎って、どんな建物なんだろうというところから考え始めました。

② 教育内容について

「こうあらねばならない」「こうしなければならない」というような考え方から解放し、教育の「そもそも」を考えるとところからスタートしました。テストで100点を取れる力も大事だけれど、正解のない社会課題から Well-being を生み出す最適解に辿り着き、さらにアップデートしていける力が自然と身につくにはどうしたらよいか…。

3 子どもたちが自分の学びをデザインするために

(1) 高信頼性組織の醸成、考える教師集団の育成

「そもそも何のためにこの教育活動を行うのか」、対話の日常化による本質観取を通して、教員の意識改革を促し、「哲学する学び舎」に変貌を遂げることが必要です。

(2) 学びをマネジメントする

① 時間割は子どもたちのもの

ゆめの森の5～9年生は、金曜日の時間割を子どもたちが作成しています。また、週に1コマ、子どもたち全員が自分をレベルアップさせるために使える自由な時間があります。学習の習得状況を振り返り、得意を伸ばしたり苦手を補ったり、創作の時間にしたりするなど、自分の学びのハンドルは自分で握ります。子どもたち自身の「やってみたい！」ワクワクが実現できる日になります。

② 個別最適な学び

子どもたち一人一人が自分の目標をもとに、自分のペースで、自分に合った方法で、教科内容を学び進める学習方法です。多様な選択肢を提供し自己決定場面を増やすことで、自律した学び手を育てていきます。

(3) 好きを伸ばす教育

STEAM教育（科学・技術・工学・芸術・数学の5つの英単語の頭文字を組み合わせた造語）の考え方に学び、体験を通して一人一人のワクワクを呼び起こします。自分の「好き」から始まる探究と創造の学びの往還により、新しい価値を実感していきます。



【ゆめの森オリジナル劇「きおくの森」公演 R5.10.28】

(4) 4Cを育む演劇教育

専任アーティストがゆめの森に常駐し、演劇教育を通して4C（クリエイティブ、クリティカルシンキング、コミュニケーション、コラボレーション）の力を育み、自己効力感や表現力を磨いていきます。

○ おわりに

今後も子どもたち一人一人の好きを伸ばすとともに、教育の原点である「信頼して、任せて、待って、支える」ことを大切に、子どもたちの「自ら育つ」力を引き出します。そして、自分の未来を切り拓くたくましさや持続可能な社会の創り手に必要な胆力を養ってまいります。ゆめの森の文化を築き、「ゆめの森道」を創っていきたいと思います。